

# 『くまもとの地下水保全活動 その先へ』



公益財団法人  
肥後の水とみどりの愛護基金  
専務理事 大野 芳範

# 熊本地域に暮らす 約100万人が 地下水の真上で生活

💧 上水道 100%地下水利用

# 地下水保全活動を始めたきっかけ

💧 上水道 100% 地下水利用



故 長野吉彰氏

## 地下水保全活動の始まり

当財団の母体である  
肥後銀行第8代頭取 故 長野吉彰氏  
問題意識から生まれた



第8代頭取  
故 長野吉彰氏

1987年（昭和62年）当時に記された文章抜粋

①

熊本市の名所である  
水前寺公園、八景水谷、江津湖は  
いずれもその名の通り  
阿蘇に源を発する清冽な地下水をこんこんと湧き出し  
市民にこよなき集いの場を与えて来た  
ところが近年その湧水量が、恐るべき減少傾向を  
示し始めている





第8代頭取  
故 長野吉彰氏

1987年（昭和62年） 当時に記された文章抜粋

③

本日は、熊本市周辺の井戸水調査で発ガン性があるといわれるトリクロロエチレンなど有機塩素化合物が検出された

**水資源の枯渇問題とともに  
もう一つの深刻な問題は地下水の汚染である  
：熊本市周辺の井戸水調査で発ガン性があるといわれる  
トリクロロエチレンなど有機塩素化合物が検出された**



第8代頭取  
故 長野吉彰氏

1987年（昭和62年） 当時に記された文章抜粋

④

（抜粋）  
20世紀前半まで日本人は、こよなく自然を愛し、自然と人間の調和共存の上に独特の奥ゆかしい文化を築き上げてきた。その同じ日本人が同じ国土の中で暮らしながら成長とか開発とかいう名に酔いしれて、何時の間にか何百年、何千年と受けついできた自然への対し方をあまりにもさっぱりと忘れ果て、捨て去ってしまった。

**20世紀前半まで日本人は、こよなく自然を愛し、自然と人間の調和共存の上に独特の奥ゆかしい文化を築き上げてきた**

**その同じ日本人が同じ国土の中で暮らしながら成長とか開発とかいう名に酔いしれて、何時の間にか何百年、何千年と受けついできた自然への対し方をあまりにもさっぱりと忘れ果て、捨て去ってしまった**



# 環境活動の 原点・哲学



公益財団法人  
肥後の水とみどりの愛護基金

第8代頭取  
故 長野吉彰氏

1987年（昭和62年） 当時に記された文章抜粋

⑥

財団法人の活動報告書  
1987年（昭和62年） 当時に記された文章抜粋

しかしながら、  
自然保護や環境美化について語る人は多いが  
『自らの手で自らの身の周りから実践』し始めている人の比率は  
悲しいかなまだ低いのも事実である



第8代頭取  
故 長野吉彰氏

1987年（昭和62年） 当時に記された文章抜粋

⑦

肥後の水とみどりの愛護基金  
このように、肥後銀行はさる4月、熊本日日新聞と手を携え「肥後の水資源愛護賞」を創設した。水資源の涵養と保全、水質汚濁防止、節水などに努力している個人や団体を表彰するのが目的である。

**このような実情をふまえ、  
肥後銀行はさる4月、熊本日日新聞と手を携え  
「肥後の水資源愛護賞」を創設した  
水資源の涵養と保全、水質汚濁防止、節水などに  
努力している個人や団体を表彰するのが目的である**

原点・哲学を基に  
自らの手で、自らの身の周りから  
具体的実践活動を開始

💧 上水道 100%地下水利用

# 愛護活動の歴史



公益財団法人  
肥後の水とみどりの愛護基金

単位:百万円

制度化

年	内容	役職:人	運営金額
1987	<b>肥後の水資源愛護賞 創設</b> 期間:1987年~1990年(4年間) 賞金総額:4千万円(肥後銀行が準備)	0	40
1992	財団法人 <b>肥後の水資源愛護基金 設立</b> (肥後銀行の出捐)	2	2
2001	自らの手で水資源を守る <b>実践活動 開始</b> 行員ボランティアの活動と寄付金中心の取組 「 <b>国有林・公有林</b> 」1.4haに6千本を植樹	2	8
2006	<b>活動継続のため自ら森林を保有「阿蘇大観の森」52ha購入</b> <b>15万本植樹目標</b> (京都議定書CO <sub>2</sub> 削減目標対応) & 地下水涵養目的	4	10
2008	公益財団法人 <b>肥後の水とみどりの愛護基金</b> 名称変更 <b>本格的に活動を拡大</b>	5	50
2011	<b>甲斐理事長就任</b> <b>「阿蘇水掛の棚田」</b> 棚田66枚 1.87ha 25年ぶり耕作放棄地再生	5	65
2012	啓発DVD「 <b>水はみんなの命</b> 」制作	8	82
2015	「 <b>肥後の里山ギャラリー</b> 」開設	13	95
2016	熊本地震後に防災井戸を設置	12	104

組織化

# ◆当財団の主な活動 1987年～

スタート

## 1. 助成金事業

- ・肥後の水とみどりの愛護賞

環境団体への助成

## 2. 啓発事業

- ・アマモ再生活動
- ・湧水地水質調査
- ・啓発動画作成『水はみんなの命』

地下水・沿岸域  
保全啓発

## 3. 阿蘇事業

- (1) 植樹「阿蘇大観の森」
- (2) 稲作「阿蘇水掛の棚田」
- (3) 阿蘇草原再生

地下水保全活動



# 1. 助成金事業

- ・ 1987年から**39回実施**
- ・ **383先：助成**（366団体・17個人）
- ・ 助成金累計：**109,550千円**



《自らの手による》：主な実践活動の場所：阿蘇カルデラ北外輪麓》

阿蘇大観の森

阿蘇水掛の棚田



## 2. 【森林】地下水涵養林管理 「阿蘇大観の森」 62ha

- ◆ 針葉樹(人工林) ➡ 涵養効果の高い広葉樹へ植樹継続中(2006年～2026年)
- ◆ 15万本以上の広葉樹を植樹:年間地下水涵養量 1百万～2百万m<sup>3</sup>
- ◆ 毎年下草刈りを実施

《 植樹風景 》



《 下草刈り風景 》



### 3. 【草原】「阿蘇の草原」の保全 20ha

地下水涵養・生態系維持・景観維持

阿蘇五岳

自然共生サイト登録申請準備

# ・野焼き・輪地切り実施

- ・蒸発散量
- ・地下水涵養力調査着手



## 4. 【水田】湛水事業『阿蘇水掛の棚田』2.26ha



公益財団法人  
肥後の水とみどりの愛護基金

2011年：阿蘇市と連携協定

耕作放棄地(25年間)



# 棚田再生 2011年



公益財団法人  
肥後の水とみどりの愛護基金

## 「阿蘇水掛の棚田」 71枚(2.26ha):現在

◆25年ぶりに復活

◆稲作ボランティア**企業18社850人**で田植え、稲刈り

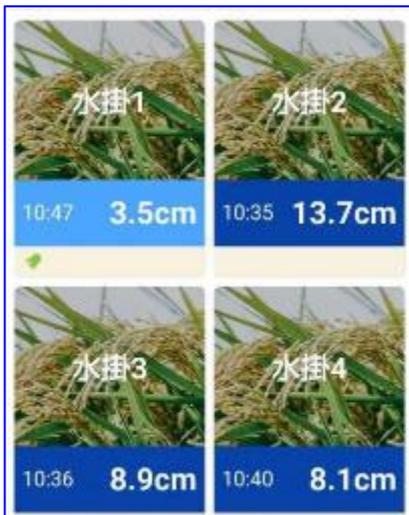
自然共生サイト登録申請中



# 「科学的データ」取得 地下水涵養量調査



全棚田  
を調査

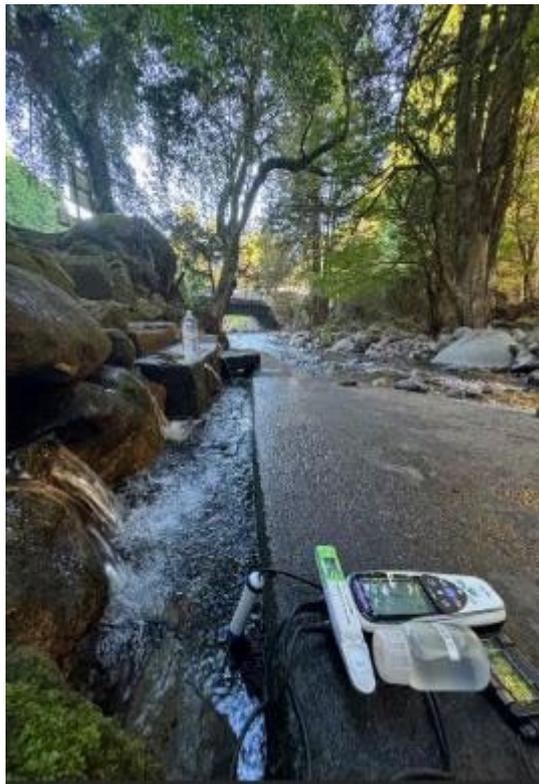


棚田67枚すべてについて計測を実施  
(稲作期間中)

調査年	地下水涵養量
2025年	244,702 m <sup>3</sup>
2024年	222,525 m <sup>3</sup>
2023年	206,206 m <sup>3</sup>

## 5. 【湧水地】 水質調査

- ・ 県内 18か所の湧水 ・ 11か所の防災井戸の水質調査を毎月実施



# 6. 【海岸域・沿岸域】（里海）保全

定款追加



公益財団法人  
肥後の水とみどりの愛護基金

産・官・学・民・金

6者間連携協定

目的・アマモ場再生

・自然共生サイト登録

団体名	役割
芦北町	各団体との連絡調整、芦北高校の活動支援
熊本県立芦北高校	アマモ再生活動、カーボンクレジット申請
芦北町漁業協同組合	活動現場での芦北高校活動の支援
鹿島建設株式会社	技術支援、カーボンクレジット申請支援
株式会社肥後銀行	支援企業のマッチング及び調整
公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金	研究資金助成、活動支援協力

高校生



## 戦略的「令和の里海づくり」基盤構築事業

(令和7年度から期間3年)

- ・ **ブルーカーボンクレジット31トン**の認証取得 (JBE認定)
- ・ 肥後銀行によりクレジット化 (19社 3, 135千円資金化)
- ・ 芦北町計石湾: **アマモ コアマモを移植** (21年継続)
- ・ 購入企業向けに「サクスツアー」 (うたせ船体験)



## 地下水保全活動をきっかけに

阿蘇（山） ⇒ 森林 ⇒ 草原 ⇒ 水田  
⇒ 河川（湧水地） ⇒ 海岸域（里海）

★流域周辺で暮らす人たちと一緒に

地域に根差した環境保全活動が大切

★水循環保全活動はボーダレス（市町村）

# 環境活動の 原点・哲学



公益財団法人  
肥後の水とみどりの愛護基金

第8代頭取  
故 長野吉彰氏

1987年（昭和62年） 当時に記された文章抜粋

⑧

財団法人の発祥

21世紀に向かって、水資源が  
それ自体に立派な『**経済価値**』を持っていることを考えれば  
熊本市の経済社会両面にわたる極めて効果のある  
**地域振興策**につながるものである

# 2026年 21世紀の現在

- 世界トップクラスの半導体製造工場が日本国から1.2兆円の補助金を得て熊本に進出その後100社を超える関連企業も進出してきている
- 40年の時を経て水資源の「経済価値」は証明

## 【問題継続】

- 大量の地下水利用
- 涵養域の減少（地下水位低下懸念）
- 半導体製造過程で利用される有機フッ素化合物による汚染懸念

## 【課題】

- ・ 変わらぬ問題を誰がどのように守り続けるのか？  
(保全事業継続のための問題意識)

## ★水環境保全ビジョンの明示：水保全のための全体像が必要

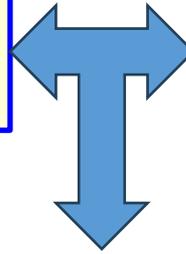
(個別問題)

- ◎税金問題： ・ 環境保全目的でも固定資産税発生
- ◎農地問題： ・ 公益財団法人は取得できない  
： 農地賃貸      ： 農業委員会の壁
- ◎保安林問題 ・ 針葉樹（人工林）から広葉樹への移行に障害（間伐できない）
- ◎自然共生サイト登録のメリット？（調査コスト・申請負担）

# 【地域金融機関の使命】

県内GDPを上げ  
(経済資本)を発展させる

県内の自然環境  
(自然資本)暮らしを守る



**GDW** (Gross Domestic Well-being) (国内総充実)

## 【地域金融機関が関与する意義】

- ・ 公共性担保と社会性確保につながる

結果：強い経済基盤で自然豊かな生活

⇒地域住民のWell-beingに繋がる

以上